

防犯設備士は 「防犯のプロフェッショナル」

防犯設備士は、防犯設備に関する知識・技能を有する専門家として当協会が認定する資格で、1992年より現在までに、32,000名を超える方が、資格を取得し、「防犯のプロフェッショナル」として、警察、自治体や各地域と連携し、地域の防犯対策や安全安心まちづくりなどに活躍しています。

また、最近では、防犯カメラ等の防犯設備を調達する際に自治体の入札仕様書に「施工・調整や保守点検については、防犯設備士の有資格者が行うこと」ということが記載されることもあり、防犯設備士の役割がますます重要になってきています。



【防犯設備士資格者が多い主な業種】

電気工事業

施工業（防犯カメラ等）

メーカー（セキュリティ関係）

警備会社

流通業

ビル管理業

防犯設備

- ・侵入警報設備
- ・防犯カメラ
- ・出入管理設備
- ・不正持出し監視設備
- ・防犯性能の高い建物部品（CP建物部品）など



ガラス破壊音検知器

屋外ハウジング一体型カメラ

フラップ式ゲート

防犯診断

設計

施工

維持管理

侵入窃盗への対応が主ですが、その他の犯罪へも最新の知識をもって対応します。

防犯設備士テキストでは、防犯やセキュリティに関する理論、センサー、設計、施工、維持・管理などの基礎知識を幅広く得ることができます。また、3年ごとの資格更新で最新の犯罪動向や手口、防犯設備に関する新しい知識を得られます。

受験者の声

- ・今回初めてIT方式で受験しましたが、時間と場所の選択肢がたくさんあるので良いと思いました。
- ・オンラインの講習はとても良かったです。パワーポイント資料がわかりやすく、とても参考になりました。
- ・問題集があったので理解し易かった。
- ・実際の業務に関わる内容なので、得た知識を現場で活用していきます。漠然と理解していたことが、意味が分かって理解できるようになりました。

資格更新者の声(資格の活用)

- ・「防犯のプロ」の肩書が説得力を増す
- ・名刺へ資格取得を記載し、信頼度を向上
- ・顧客へ提案時に身分証明の一部にできる
- ・公共工事向けの工事受注案件や資格要件
- ・顧客に資格の有無を問われることがある
- ・業務上の知識向上
- ・防犯カメラ等のシステム設計時に活用
- ・出入管理システムの設計・施工に活用
- ・自治会への防犯アドバイス
- ・社員教育として
- ・防犯相談に対応